

## 令和5年度（大和東高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
(1) 法令遵守意識の向上（法令の遵守（高い倫理感の保持及びわいせつ事案をはじめとする不祥事の根絶）、服務規律の徹底）	職員一人ひとりが不祥事の未然防止について当事者意識を持って取り組み、決められたルールを遵守し、1年間の不祥事をゼロとすることを目標とする。	i) 生徒の連絡先の適正な取得・管理方法等について、定期的に点検を行った結果、生徒への連絡は適切に行われていた。 ii) 全職員に「神奈川県職員行動指針」の周知徹底を図り、神奈川県職員として求められる行動を再確認させた結果、全員が行動指針を自分のことと受け止め、意識的に行動した。 iii) 外部講師を招聘し、資料を活用した研修を実施した結果、職員の意識を高め、法令順守意識の強化に繋げることができた。 iv) 校長による個人面談を実施し、SNSの利用状況等を把握し、適正に利用していることを確認した。
(2) 職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	権感覚と規範意識、協働意識の向上を図る。	i) 職員の言動に問題があると感じた時には相互間で注意喚起を行うことを職員全員で意識・実践した。 ii) パワハラ・セクハラ・マタハラ等がない職場づくりに取り組める職場環境を職員全員でつくった。 iii) 管理職による面談を実施し、職場のハラスメント防止を徹底し、職員の同僚性を高めた。
(3) 児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為が生徒の人権を踏みにじる行為であり、決して許されないことを全ての職員が十分に理解し、人権に配慮した行動の徹底を図る。	次により、生徒へのわいせつ・セクハラ行為をゼロにできた。 i) 教員と生徒が適正な距離を保てるよう、教育相談などの機能を活用することで、安全な環境をつくった。 ii) 生徒とのSNS等利用の禁止を徹底した。 iii) 生徒の連絡先の適正な取得・管理方法を徹底した。 iv) 教科準備室等に常駐しないことを徹底した。
(4) 体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権に対する配慮を怠ることなく日頃から適切な生徒指導に努め、体罰や不適切な指導を未然に防ぐ。	i) 教員が常に学び合い、指導力を高めることで、体罰を認めない風土をつくった。さらに全教員の意識が支援の充実という考え方にシフトできたことも重なったことで、体罰によらない指導を充実させることができた。 ii) 見て見ぬふりをせず、教員同士が相互に注意しあい、小さなことでも管理職への報告を怠らなかつたことで体罰や不適切な指導の抑止を図ることができた。 iii) 特に言葉による体罰を未然に防止するため、管理職が率先して日常的な態度や言葉に留意したことで、職員の意識も向上し、人権感覚を高めることができた。
(5) 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	新たな仕組みに対応したマニュアルをつくること。また、管理職をはじめ全ての職員が相互チェックに取組むことで、事故防止に努める。	i) 新たな仕組みを徹底的に読み込み、正しい手順通りのマニュアルを作成した。 ii) 入学者選抜業務における作業手順を徹底し、複数の教員によるチェックを確実にを行った結果、公正な選考を実施することができた。 iii) 調査書・推薦書の作成及び取扱いについては、組織的な点検を行い、事故防止を達成した。

<p>(6) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策</p>	<p>個人情報の漏えい等のリスクは、常に身近にあることを意識して、ルールに従い適切に管理し、紛失、漏えい防止に取り組む。</p>	<p>i) 教務手帳や生徒カード等の紙による情報及び成績等のデータ情報をそれぞれ指定の場所に保管すること徹底したことで、個人情報を適切に管理できた。 ii) 新たに作った答案等の管理方法に全教員が従ったことで、答案等の誤廃棄はゼロであった。 iii) 情報発信の際には、内容を複数教員及び管理職で点検したことで、個人情報流出事故ゼロを徹底できた。</p>
<p>(7) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守</p>	<p>制限解除に関係なく、気を緩めずに各種法規の遵守に努める。</p>	<p>i) 車輛等の運転者は常に安全運転に努め、交通法規を遵守した。 ii) 車輛を運転する者は「乗るなら飲むな、飲むなら乗るな」を徹底した。</p>
<p>(8) 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）</p>	<p>職員は情報共有に努め、業務協力体制と相互チェック体制を構築し、円滑な業務執行体制を整える。</p>	<p>i) グループリーダーや学年リーダーを中心に報告・連絡・相談が円滑に進む業務体制をつくった結果、情報や仕事の流れが円滑になった。 ii) 業務が特定の個人に偏らないよう、グループリーダーや学年リーダーの調整により、チームで業務を遂行する協力体制を敷いた結果、職員間の人間関係も円滑になり、働き甲斐のある職場になった。</p>
<p>(9) 財務事務等の適正執行</p>	<p>県費、私費の迅速で適正な執行と、事故の未然防止に努める。</p>	<p>i) 年度当初に、私費会計のルールについて担当職員対象の研修会を行い、年間を通じて適切な会計の執行が行われるようにした。 ii) 会計担当、管理職及び出納責任者（事務長）のチェックを徹底した。さらにミス情報を共有したことで以後のミスを抑止できた。 iii) 現金の扱ったときは、当日中に事務長に引き継ぎ、金庫に預けることを徹底した。</p>

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

令和5年度は、これまでの不祥事防止のしくみに加えて、職員の同僚性の向上を図るべく職場環境の改善を図った。これが、生徒に対してさらには職員間でも丁寧に対応するという行動にも表れてきたこと、そこから互いに良い意味での指摘ができ、事故や不祥事の防止に繋がったと考えている。

6年度もこの結果に甘えることなく、さらなる良い人間関係づくり（同僚性の向上）及び事例検証を踏まえた適切な改善を行うことで不祥事ゼロに取り組む。